

# 多様な背景を持つ子どもが 共生・協働する力を独自施策で育む

神奈川県 川崎市教育委員会 教育長 小田嶋 満

人口の増加や国際化など、絶えず変化し続けている神奈川県川崎市。多様な子どもが共生する環境を強みとした資質・能力の育成を目指し、子どもの自立を支えたいと、小田嶋満教育長は語る。その取り組みについて聞いた。

おだしま・みつる 川崎市の公立中学校で国語科教諭として勤務。川崎市立稲田中学校校長、教育委員会事務局学校教育部長、宮前区長等を歴任。2019年4月から現職。

## 人権尊重教育を根幹に 多様性を尊重する心を育む

工業都市として発展してきた本市は、かつて公害問題に悩んだ時期もありましたが、現在は様変わりしています。工場のあった跡地には、先端産業の研究機関が集積するとともに、マンションなどの宅地開発が進みました。交通の利便性も高く、今では、「選ばれるまち」として人口が増え続けています。子どもの増加には学校を新設して対応していますが、教員不足などの課題も生じています。

本市の教育施策の土台にあるのは、多様性の尊重です。歴史的に在日韓国・朝鮮人が多い地域であることに加えて、近年は、外国人の人口増加に伴って子どもの多国籍化が進んでいます。市内の小・中学校には20を超える言語を母語とする子どもが通い、日本語の指導が必要な子どもは、この7年間で3.7倍に増えました。そのため、今までの国際教室による対応のスキームに加え、母語による日本語初期支援、国際教室未設置校への非常勤講師の派遣など、個別指導体制の充実に努めています。

本市では、そのような多様性を生かすことを重視してきました。教育施策の重点を定めた「かわさき教育プラン」でも、基本目標の1つに「共生・協働」を掲げ、「個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会の実現をめざし、共生・協働の精神を育むこと」を目指しています。

多様な背景を持つ子どもが共生し、互いを尊重し合えるように、人権尊重教育をあらゆる教育活動の根幹に位置づけ、長年にわたり実践を積み重ねてきました。今、新型コロナウイルスに関連した差別や偏見が問題視されていますが、本市の学校では今のところ大きな問題は起こっていません。それも、これまでの人権尊重教育の成果の1つと捉えています。

多様な子どもたちの共生・協働を支えるのは、基本的な人間関係を構築する力です。しかし現代では、家庭や地域社会でかつてのような様々な経験を積む機会が減ったため、その力が十分に身につかないまま小学校に入学し、クラスや学校で集団生活を送ることがままならないケースが生じています。特に、地域とのか

かわりが希薄になりがちな都市部ほどその課題は大きく、本市でも子どもの自己肯定感が全国平均に比べてかなり低かった時期がありました。集団内で自分らしさを発揮しづらいことが、一因としてあったと考えています。

そこで、家庭や地域で積み残した経験を学校で意図的・計画的に補おうと、2010年度、全市立学校に「かわさき共生\*共育プログラム」を導入しました。年間6時間を標準とし、自己理解や自己表現、他者理解、コミュニケーションスキルなどを学ぶエクササイズを通じて、人間関係づくりの体験を小学1年生から積み上げていきます。また、個人と集団の状況を把握するために、簡単なアンケートとその結果をプログラム処理して散布図の形で可視化した「効果測定」も活用し、日常の学級づくりと関連させた取り組みを進めることが、学校生活の満足度や自己肯定感の向上などにつながっています。

## 行政区の教育担当者が 迅速で適切な対応を支援

2013年度からは、独自の「キャ



リア在り方生き方教育」にも力を入れてきました。そこでも共生・協働を重視し、さらにシビックプライドの醸成を図るため、①個性・持ち味を最大限に発揮しながら、②共生・協働の精神を養い、③郷土を愛し、ふるさと川崎の将来の担い手を育成する取り組みを行っています。高校や大学を卒業後、東京や横浜など市外に出る人も多くいますが、地域のよさや可能性を深く理解することで、やがて本市に戻り、市の発展に貢献してくれることを期待しています。

「キャリア在り方生き方教育」では、「つなぐ」をキーワードとして、家庭や地域、社会との連携も重視しています。それに加え、今は持続可能なまちづくりに向けて、SDGs\*と結びつけた活動の充実を図っています。本市は、長年行ってきた公害問題対策など、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが評価され、2019年度に内閣府の「SDGs未来都市」に

選定されました。そうした地域の資源を、積極的に教育に生かしていく考えです。

また、学校が様々な課題に迅速・適切に対応できるよう、2008年度から7行政区の各区役所に教育担当の職員を置き、区役所の関係部署と連携して、学校支援や保護者支援、定期的な学校訪問など、地域の実態に応じた支援をきめ細かく行っています。さらに、2016年度からは区民の様々なケアを担う「みまもり支援センター」内への配置とし、福祉・医療部門を始めとした関係部署や関係機関との連携をさらに強め、様々な事案に速やかに対応できるようにしました。

### 教育の不易を見定めつつ 新たなチャレンジを続ける

令和時代の教育を考えると、変化への対応がこれほど求められている時代は、恐らく明治期の学制発布以

来初めてでしょう。それだけに、不易と流行の見極めがこれまで以上に重要であると考えています。

30年先に学校がどのような変容を遂げているかは予測困難ですが、対話や相互の関係性の上に成り立つ共生的・協働的な学びは、教育の不易であり、学校の重要な意義であり続けるでしょう。今後もキャリア教育などを一層充実させて、多様な存在を受け入れ、他者を思いやる想像力を持つ子どもを育むという方針は変わらないと考えます。

一方で、社会の変化に合わせて発想を変え、思い切った新たな視点を取り入れることも重要になるでしょう。その1つが「GIGAスクール構想」であり、理想の授業や教育活動を実現するためのチャンスにほかならないと捉えています。これからも、教職員がワクワクしながら新たな教育を生み出し、チャレンジしたくなる環境づくりに努めていきます。



## 神奈川県川崎市 プロフィール

◎神奈川県北東部に位置する政令指定都市。戦前より京浜工業地帯の中核として、日本経済の発展を支えてきた。近年は重化学工業から研究開発型のものづくりの拠点へと移行しつつある。人口増加が続き、2030年には158万人になると予想されている。人口 約154万人 面積 約144.35km<sup>2</sup> 市立学校数 小学校114校、中学校52校、特別支援学校4校、高校9校 児童生徒数 約10万8,800人 電話 044-200-3261 (教育委員会総務部) URL <https://www.city.kawasaki.jp/880/>

\* Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。